

MMCA Residency Goyan 滞在報告 増田拓史

【活動内容】

滞在中は、朝鮮戦争終結後から始まった、韓国における国際養子縁組についてリサーチと当事者とのインタビューを実施した。

この養子縁組の仕組みは、朝鮮戦争終結後の米兵との間の子や戦争遺児などの救済措置として、主にアメリカに養子として送り出されるものとして始められた。

その当時に確立された仕組みはやがて、世界中に養子に送り出す仕組みとなる。

朝鮮戦争からの復興後も継続され、現在までに送り出された養子の数は20万人を超えていると言われている。

受入側には慈悲感情や、子供に恵まれない為に養子を求めるという事実があるので、この仕組みが一概に悪いとも言えない事実も浮かび上がる。

このテーマを設定した理由は、

1) 韓国や朝鮮半島は元来、日本との関わりが強く、共通の文化・技術を持っているし、外交的な関わり合いも強かったことは歴史的に明らかになっている。

外交的な関係においては、朝鮮出兵（1592年）からはじまるいわば支配的な関係が、太平洋戦争集結（1945年）まで断続的に発生・続いたこともあり、必ずしも良好な関係であったとは言えない。また、本件朝鮮戦争に関して言えば、日本は援軍として連合軍側の掃海作戦や補給をになっており、日本としてまたは日本人として無関係であったともいえない。

2) 2001年当時私は米国カリフォルニア州に在住していた。そして同時多発テロが発生した。その後の混乱期を外国人として生活する中で、人種差別的な扱いを体験。そして、北米では日本人というよりもアジア人として取り扱われることに関心を持ち、自ら韓国に転居し約1年間過ごした経験がある。

よって、このテーマは私にとって縁遠い話や無関係な設定ではないと言える。



それでは活動内容について触れていきたい。

滞在期間冒頭は、韓国内の美術作家関係者の中から国際養子縁組についての基礎情報を収集。

やはり、広く知られている仕組みである印象を受けた。

リサーチ開始当初、実際に韓国を訪れている当事者に会うのは難航していた

が、レジデンスで行われたオープスタジオにて、プロジェクトのアウトラインを掲示していたところ、複数人から現在滞在中の当事者を知っている方々と出会う事ができた。その経緯で、複数人の被国際養子の方々と出会う事ができた。

国際養親縁組を支援している数団体にもインタビューの申し入れを行なったが、どこからも承諾は得られなかった。

滞在期間中に対面インタビューしたのは5名。国内で養子となった方1名にもインタビューを行えた。また、7月末にソウルで開催された韓国国際養子縁組に関する国際シンポジウム「IKKA」の傍聴とトークイベント「SPEAK」に参加した。

インタビューをした5名は全員が韓国籍以外の国籍を保持しており、4名は一時的もしくは数年の短期滞在、1名が韓国人と婚姻し、しばらくは韓国で生活との事だった。

IKKAのシンポジウムでは北米およびスカンジナビア地域の養子コミュニティの現状が伝えられた。



多くの場合に共通しているのは、自身のアイデンティティの再確認を求めるものだった。

育ち生活している国では「養子」「外国人（実際には国籍として外国人ではない）」として扱われ、韓国を訪れても言葉がわからず「外国人」として扱われたりしている。血筋としては100%の韓国人であるにも関わらずだ。

そのため、自分が「何人」なのか「何者」なのか、そして、社会から必要とされているのだろうかといった葛藤を抱くものが多いようだ。

テーマに対しての滞在期間はとても

短く、序論に触れる程度で終了してしまった。

この取り組みは、現在も進行している。コロナ禍の影響で中止せざるを得なくなったが、韓国への再渡航も予定していた。

また、オンラインでのインタビューや関わり合いも継続しており、いつか作品として正式に発表したいと思っており、活動を続けている。

MMCAや生活環境については、下記の通りまとめた。

【MMCAの地理】

国立現代美術館レジデンシーコヤンは、ソウル特別市から北西の京畿道高陽市（キョンギドコヤン）に所在する。

空港からは、バス、電車、タクシーを利用でき、所要時間は1時間から2時間。

レジデンスの為に持ち込む荷物や機材の量を考えると、タクシーを利用するのが利便性が高い。コストはタクシーで約60,000ウォン、バスや電車で約12,000ウォン。



ソウル市内からは、

バスか電車で約1時間から1時間半。行き先によって乗り分けると便利だろう。

中心地として活用していた、チョンノサムガ（鍾路3街）やキョンボックン（景福宮）へは、9709もしくは9710系統で直行できる。その他の場所へは、799、9710、9709系統で、サムソン駅もしくはグッパバル駅で地下鉄に乗り換えると良い。

ソウル周辺はバス網が発達していて利便性が高い一方で、訪問者には複雑である。

そのため、レジデンスからチョンノサムガなど

までバスで行き、そこからタクシーを利用するのもよい。



慣れてくればバスのみで何処へでも行ける。電車もバスも車内では基本的には英語のアナウンスも行われるが、稀になんらアナウンスが行われないこともあるので注意したい。

【地図アプリ】

韓国では、地図アプリとしてKakao Mapが多用されている。

行き先を設定すれば、バスの番号や時刻表、さらにはバスの到着時刻まで表示されるので便利。

グーグルマップとは、ルート検索の結果も異なる。

バスや電車に乗車中は、路線図に現在位置が表示されるので、万一アナウンスが聞き取れない場合でも安心できる。

【タクシーアプリ】

こちら、Kakao Tと呼ばれるカカオ系のアプリが一般的に使われている。行き先と車のグレードを選択すると、所要時間と料金目安が表示され、確認すると配車される。配車されたタクシーはすでに行き先が伝わっているので、言葉が伝わらなくても問題ない。また、クレジットカードを登録しておく、降車時に現金支払いをする必要がないので便利かつ過剰請求される心配もない。

どちらのアプリも英語に設定しておく、スタッフや地元作家、街中の人に見せた時に内容が伝わりやすいので便利。

【材料の入手など】

実物を見る必要がないものは、ネット通販を利用すると良い。韓国にはAmazonは無いが、多くのECサイトがあるので利便性が高い。翻訳機能を使うか、レジデンスしている韓国人作家に手伝ってもらおうと良いだろう。基本的に翌日もしくは翌々日には到着する。



基本的な文房具やDIY用品は、レジデンスから徒歩15分程度の場所にあるCCOKIOと言う店が使いやすい。筆記・ドローイング器具や紙類、ネジや釘、スチレンボード、マスキングテープ類はここで一通り揃えることができる。

それ以外の物はソウル市内まで出る必要がある。

【食事】

レジデンス周辺には、大衆食堂が数多くあるので食事に困ることは無いだろう。スープ類の定食か豚焼肉もしくは鳥系のお店が多く、ほとんどのメニューが辛い。トンカツ（韓国でもトンカツとよばれ、一般的に取り扱われている）や、サバ焼き、ジャジャン麺、豆乳冷麺などは基本的に辛くないので覚えておきたい。



また日本人オーナーが営むRAKU CAFEでは、日本食が楽しめる。
レジデンスの存在も知っているので意思疎通がしやすい。

また、周辺事情やソウルのことも、日本語で聞けるのでやさしい。

外食は、600ウォンから1,000ウォン程度で済むことが多い。

その他、ファジョン駅やグッパバル駅周辺には、さらに多くの和洋中韓の飲食店があり事欠かない。

【スーパー】

レジデンスには十分なキッチンが備わっているので、自炊もできる。

Halla MartというスーパーがCCOKIOの隣にあり、日本にある食材は同じようなものが一通り揃う。

めんつゆ・だし・カレールーなども日本の物が揃っている。

レトルト系や冷凍系の食品も多く取り扱っているので、調理が苦手な作家でも安心できる。

またここは、多くのレジデンス作家御用達のスーパーだ。

【コンビニ】

コンビニは徒歩圏内に2店舗ある。

インスタント系やスナック系、アルコール系はここで用が足りる。

ビールは日本よりも国際色豊かな取り扱いが特徴。

交通系カードは各コンビニでチャージができる。

【支払い方法】

日本よりもキャッシュレスが浸透しており、基本的にどこのお店でもクレジットカードや交通系カードが使用できる。

食堂や屋台など、お店によっては現金が使えない、もしくはお釣りが無い場合があるので注意したい。

クレジットはVISAであれば、大抵のお店は取り扱っている。

クレジットを持っていない作家は、あらかじめVISAデビットカードを作っておくと良いだろう。

もしくはTカードに十分な額を入金しておきたい。

現金を入手するには、日本円を両替所か銀行で両替するほか、PLUSマークのあるキャッシュカードもしくはVISAクレジットカードを使い街中のATMで入手できた。

【携帯】

通信ネットワーク環境は良好で、4G回線が途切れることはほとんどない。

また、データ通信速度も良好。

レジデンスには各部屋にLANポートが備わっているが、これは通信環境が不安定なので、PCなどを使うときには携帯とテザリングさせた方が安定している。

SIMは事前手配なく空港や街中で入手できるが、日本で予約しておいた方が安くなる料金プランも存在するので調べておいたほうが良いだろう。

データのみプランと、電話番号付きのものがあるが、番号があった方が、Kakao Taxiやデリバリーなど、諸々便利なので、番号付きを推奨したい。

【スタジオ】



スタジオ入口の扉はフルハイトでとても大きいので、搬入出に困ることはないだろう。

広さは約60平米で、空調も完備されている。

照明も十分な明るさがあり、コンセントは壁面に設置されている。電源の仕様は単相220Vだ。

日本から持ち込む電子機器が110~220Vに対応していれば、プラグの形状だけ変換すれば問題なく使用できる。

プラグの変換アダプタは前記したCCOKIOでも売られている。

【寝室】



寝室は四畳半程度あり、スタジオ内に区画が区切られている。

ワードローブとベッド、机と椅子が用意されていて、エアコンがスタジオとは独立して設置されている。

【ワークショップ】

ワークショップ（工作室）は、金工と木工の二部屋に独立している。
溶接機やテーブルソーなど、どちらの部屋にも基本的な工作機械と手元工具が用意されているので、レジデンス期間中に制作する為には事足りる。
また、ワークショップの外では屋外作業ができるようになっているので、溶剤系などの塗装もできる。
各工具類は自分のスタジオに持っていくこともできる。

細かくは、入所日に設備利用規則を提示してもらえます。

【キッチン】



キッチンはTVルームも兼ねていてとても広々している。
冷蔵庫は2台設置されていて困ることはない。
コンロは2箇所計3口あるが、電気コンロタイプなので火加減が難しい。
ゴミの捨て方は日本と同じく細かく区別されているので事前に確認すると良い。

【ランドリー】

洗濯機は1台用意されている。
主に寝泊まりしているのは、海外組なので、1台でも十分に足りる。
乾燥機はないので屋外の作業場に干すか、スタジオに干すことになる。
洗剤などはスーパーで購入できる。

【サポート】

滞在活動中は、MMCAのスタッフがリサーチや制作のサポートを手厚くしてくれる。またワークショップなどの際には、通訳の手配もあった。
また期間中には、MMCA主催のフィールドトリップや、キュレーター向けのプレゼンテーションなども企画されるほか、海外作家組の展覧会も企画される。
展覧会では、インストラクターがサポートしてくれるので、設置や電子機器の設定なども安心できる。

【病院】

多くの総合病院には国際センターが設置されていて、様々言語で問い合わせと予約ができる。韓国の医師は欧米で学ぶことも多いようで、日本よりも英語でのコミュニケーションが円滑にできる。

コンセンサスもうまくとれ、韓国内で根本治療するのか、日本に帰国するまでの簡易的な処置にするかを選択できた。

料金はクレジットカードもしくは現金払いで行える。また、日本の保険会社と連携しているところも多く、取り扱いがあればキャッシュレスで手続きが終了する。

滞在期間中にアメリカからの作家が盲腸を患い緊急手術をしたが、大きな不安要素はなかった。

また、盲腸の場合、約6,500,000ウォンかかったので、やはり海外旅行保険に加入する必要があるだろう。（MMCAは保険加入が必須）

また、当該病院が加入している保険に対応していない場合は全額仮払いする必要があるので、必要に応じて加入する保険が対応できる病院を把握しておくといいのかもしれない。

日常の怪我や体調不良は、街中の薬局で事足りる印象を受けた。

【衣料品など】

衣料品はまったく困ることはない。

日本にもあるようなファストファッション系は多数存在する。

バス1820系統で20分程度のファジョン駅周辺にはユニクロやダイソーがある。

また、前記のグッパバル駅には無印良品・ユニクロなどが駅ビルに入居する。

レストランには欧米料理や鮫、ラーメン店などもある。

【対日感情】

2019年当時では、ソウル中心地では反日活動が行われていたり、一部の商店街などでは組合をあげて不買運動などをしていた。

商店主たちにの話によると、一部の飲食店組合は反日系の政治家との関係性が強く、ポーズとして、横断幕の掲揚などをしているのだそうだ。

反日横断幕のすぐ隣の珈琲店では、非常によくしてもらった。

一般的には日本文化は好まれていて、日本料理屋や居酒屋はどこも賑わっていた。

また、街中などで罵倒されるようなこともなかった。

とはいえ、一定数の反日派が存在するのは事実なので、不要な発言など注意したい。